

(5) 精神科神経科

1. 研修目標

様々なレベルの不健康に曝されている人々の苦悩を、全人的に診るとする医師としての基本的な姿勢、すなわち、bio-psycho-socio-ethical model の観点にたつて、肉体的だけでなく心理的側面から、さらには、環境的分野に対しても、把握し、理解し、積極的に援助できる姿勢と技能を修得する。特に、統合失調症、双極性感情障害、認知症、発達障害、身体表現性障害、ストレス関連障害などの精神と行動の障害の病態生理、診断、治療を理解し、良好な患者と医師の信頼関係に基づいた全人的医療を学ぶ。

2. 研修指導体制

- (1) 病棟では、指導医（主治医）の下で、病棟の2つのグループの一つに属し、副主治医（あるいは主治医）として2～3人の患者を受け持ち、実際の診療にあたる。病棟回診、新患紹介、病棟カンファランスでの検討会で症例の説明・呈示を行い、理解を深める。
- (2) 外来では、予診をとり、本診の面接方法、診断の導き方、治療について診察医（指導）とディスカッションを行い、学習する。外来カンファランスで症例の呈示を行う。
- (3) 学生実習にあたっては、主治医グループの患者を受け持った学生の指導を担当する。

3. 研修指導責任者

研修指導責任者（小澤寛樹）

4. 研修内容

- (1) 診療における基本的事項
 - ①外来新患予診（精神症状と精神医学用語の基礎、面接の基本、カルテ記載など）
 - ②入院治療の基本（面接、記録、検査、回診時のプレゼンテーションなど）
 - ③精神保健福祉法の重要事項の理解
 - ④精神科診療に必要な神経学的・身体的診察法
 - ⑤患者・家族への応接、電話対応の具体的演習、患者・家族-医師関係の理解
 - ⑥リエゾン精神医学
- (2) 症状評価・診断
 - ①精神症状評価法の演習（PANSS、HRS-D/A、Beck-D/M、Youngなど）
 - ②ICD-10、DSM-IV-TR診断基準
- (3) 検査法
 - ①心理検査の演習（知的機能の評価、質問紙法による人格検査、投影法による人格検査、高次脳機能の評価、発達障害の評価など）
 - ②脳波検査法と判定の実際
 - ③脳画像診断の基礎
- (4) 治療
 - ①精神療法の基礎
 - ②代表的向精神薬の具体的使用法、注意すべき副作用
 - ③精神科救急処置（不安発作、抑うつ、自殺企図、けいれん発作、幻覚妄想状態、せん妄など）
 - ④精神科リハビリテーションの理解（精神科作業療法、レクリエーション療法、生活技能訓練（SST）など）

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

- ①患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を学ぶ。

- ②精神症状のとらえ方の基本を身につける。
- ③精神疾患に関する基本的知識を身につける。
- ④精神症状に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
- ⑤簡単な精神療法の技法を学ぶ。
- ⑥人間関係のとり方を学ぶ。
- ⑦精神科診断分類法を説明できる。
- ⑧向精神薬について基本的知識を持ち、自ら使用してみる。
- ⑨精神科医療の法と倫理に関する必須事項(精神保健福祉法、インフォームドコンセント)を説明できる。
- ⑩QOLを考慮に入れた管理計画をたてられる。
- ⑪コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。
- ⑫社会復帰や地域支援体制を理解する。

5-2 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的な身体診察法

- ①全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握)ができ、記載できる。
- ②頭頸部の診察ができ、記載できる。
- ③胸部の診察ができ、記載できる。
- ④腹部の診察ができ、記載できる。
- ⑤神経学的診察ができ、記載できる。
- ⑥精神面の診察ができ、記載できる。

(2) 基本的な臨床検査

- ①一般尿検査
- ②便検査
- ③心電図(12誘導)
- ④動脈血ガス分析
- ⑤血液生化学的検査・簡易検査(血糖、電解質など)
- ⑥髄液検査
- ⑦単純X線検査
- ⑧頭部X線CT検査
- ⑨頭部MRI検査
- ⑩神経生理学的検査(脳波検査)

(3) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

- ①採血法(静脈血、動脈血)を実施できる。
- ②注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる。
- ③穿刺法(腰椎)を実施できる。
- ④導尿法を実施できる。
- ⑤胃管の挿入と管理ができる。

(4) 基本的治療法

- ①療養指導ができる。
- ②薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。
- ③輸液ができる。

(5) 医療記録

- ①診療録を記載し、管理できる。
- ②処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- ③診断書、その他の証明書を作成し、管理できる。

B 経験すべき症状・病態・疾患

(A: レポートの提出が必要な症状)

- (1) 頻度の高い症状
 - ①全身倦怠感
 - ②不眠 (A)
 - ③食欲不振
 - ④発疹
 - ⑤発熱
 - ⑥頭痛
 - ⑦めまい
 - ⑧失神
 - ⑨けいれん発作
 - ⑩動悸
 - ⑪歩行障害
 - ⑫不安
 - ⑬抑うつ
 - ⑭幻覚、妄想
 - ⑮自殺念慮
 - ⑯健忘
 - ⑰意識障害 (せん妄)
 - ⑱失見当識
- (2) 緊急を要する症状・病態
 - ①意識障害
 - ②精神科領域の救急 (A)
- (3) 経験が求められる疾患・病態
(A：レポートの提出が必要な疾患、B：経験することが望ましい疾患)
 - ①統合失調症 (A)
 - ②双極性感情障害 (A)
 - ③認知症 (A)
 - ④症状精神病
 - ⑤ストレス関連障害 (B)
 - ⑥不安障害
 - ⑦アルコール依存症
 - ⑧身体表現性障害 (B)
- C 特定の医療現場の経験
 - (1) 予防医療
 - ①食事、運動、禁煙指導とストレスマネジメントができる。
 - ②地域・職場・学校検診に参画できる。
 - (2) 地域保健・医療
 - ①保健所の役割について理解し、実践する。
 - ②社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。
 - ③診療所の役割について理解し、実践する。
 - (3) 小児・生育医療
 - ①小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
 - ②虐待について説明できる。
 - ③学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
 - (4) 精神保健・医療
 - ①精神症状のとりえ方の基本を身につける。
 - ②精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
 - ③デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。